

IP NGNをコンセプトに、ネットワーク環境から次世代アプリケーションまでをサポート

シスコシステムズ（以下、シスコ）は、ネットワークに精通した“スペシャリスト”として、コアからエッジまでの幅広いインフラソリューションから次世代アプリケーションまでを提案している。統合IPネットワークによるIP NGNをコンセプトに、NGN時代のネットワーク環境の整備とサービス開発をサポートするシスコの取組みについて、サービスプロバイダー営業担当の堤 浩幸取締役・常務執行役員にうかがった。

サービスプロバイダー向け テクノロジービジョン IP NGN

— 貴社ではサービスプロバイダー向けのテクノロジービジョンとして、IP NGNを提唱されています。初めに、IP NGNのコンセプト、狙いからお聞かせください。

堤 シスコは、顧客層ごとに、エンタープライズ向け SONA（Service Oriented Network Architecture）、コマーシャル向け ホールオファ、コンシューマー向け ホームネットワークコネクション、そしてサービスプロバイダー向けのIP NGNといった4つのビジョンを提唱しています。IP NGNは、音声、ビデオ、データ、さらには将来発達するいかなるコミュニケーションモデルにも順応するオープンかつオールメディアコミュニケーションサービスをサポートする新時代型IPベースのネットワークです。IP NGNでは、ネットワーク、サービス、アプリケーションの3つのレイヤーを融合（コンバージェンス）します。

私どもがIP NGNを提唱する背景として、大きく3つ挙げられます。

一つは、IP NGNによって、ネットワーク全体の付加価値をより高めるといことです。2つ目は、IP NGNをベースに、日本経済の活性化を図りたいということです。我々は、IP NGNにより日本の経済上昇率を1.5%～3%程度高めることができると試算しています。3つ目は、お客様の利便性の向上です。

— 利便性の観点では、消費者のニーズが高度化している…。

堤 サービスプロバイダーが提供するネットワークサービスに対し、お客様は受動的・選択型のサービス利用から、参加型・創造型へと高度化してきており、これに伴いサービスプロバイダー側も、単なる接続・処理から相互作用や活性化への対応など、カスタマイズ化が求められてきています。このような進化を我々は、“Experience”と称しています。利用者は経験を積むことで、「単なる通信接続を超えたサービス」を求めています。例えば、消費者は、音声通信やビデオ（動画）、データ通信、そしてモビリティ等のサービスバンドリングを求めていますし、企業のニーズは可用性と安全性の高いマネ



シスコシステムズ(株)
取締役 常務執行役員
サービスプロバイダー営業担当
堤 浩幸氏

ージド・サービスへの要望が高まっています。

IP NGNでサービスプロバイダーの進化をサポート

— サービスプロバイダーのサービス・モデルも進化してきている。

堤 加入者のパーソナル化、通信伝送ベースのサービスモデルからコンテンツベースへのサービス革新、マス向けサービスのバンドリングによるカスタム対応、高可用性の担保、アプリケーション認知機能に基づくQoSの導入と課金など、サービスの進化が求められています。しかも進

求められているニーズ	実現方法(機能要件)
新サービスの市場投入スピードのアップ	サービスを構成する機能を部品化し、再利用できるようにする
サービスの柔軟性を上げ、カスタム化、パーソナル化への進化	サービス横断的に利用できるシングル・ユーザーIDの開発
パートナー、サードパーティーとの協業によるアプリケーション、コンテンツの選択肢の拡大	協業者を引き込む環境を整え参加者が使用するインタフェースの標準化を進める
サービスを離れられないものにする	顧客のアプリケーションを進化させるような役割(提案)をする

図1 NGNに求められる機能要件



図2 現在のネットワークの優れた点を融合したIP NGN

化に伴い、事業／サービスの垣根が崩壊し、競争環境が激変するものと思われま。こういった進化に対応したサービスプロバイダーを我々は“Experience Provider”と称しています。

こういったサービスプロバイダーの進化を実現するためには、縦割りのネットワークでは実現できません。そのためのオープン・サービス・デリバリー（NGN）に求められる機能要件としては、図1に示すような機能の部品化、シングル・ユーザーIDの開発、インタフェースの標準化、顧客のアプリケーションを進化させるような提案が必要であり、それをサポートするのが我々のIP NGNです。

IP NGNは複数レイヤーの融合を実現する理想的なネットワーク

—— IP NGNのアーキテクチャ及び実現する技術の詳細は、各論の頁で紹介しますが、ポイントをお聞かせください。

堤 IP NGNは、お客様、サービス、そしてネットワークの包括コネクションを実現するもので、現在のネッ

トワークの優れた点を融合する理想的なネットワークを目指しています。このため、前述したように、ネットワーク、サービス、アプリケーションの3つのレイヤーのコンバージェンスを実現します。ネットワーク・レイヤーでは、CAPEX／OPEX（Capital Expenditure; 資本コスト／Operational Expenditure; 運用コスト）の削減やネットワークへの効率的な投資、サービス・レイヤーでは、安心安全な広範囲なアクセスサービスの継続性、アプリケーション・レイヤーでは利益向上につながるブロードバンド上での新しく画期的なIPによるデータ／音声／ビデオサービスのインテグレーションを実現します。

これらの内、最も重要なのがサービス・レイヤーのコンバージェンスです。シスコは、NGN上で展開されるクワッドプレイ（音声、ビデオ、データ、モビリティ）実現のためのオープンフレームワーク「SEF（サービス・エキステンジ・フレームワーク）」を提供しています。このSEFがIP NGNの心臓部といっても過言ではありません。サービスに

関して、ハイウェイからトルウェイへの移行、すなわち均一料金から付加価値集積モデルへのサービス展開をSEFによって実現するというのがシスコの考えです。

ワールドワイドでIP NGNを推進

——最後に、今後のサービスプロバイダー戦略をお聞かせください。

堤 サービス展開からネットワーク構築、需要拡大、ビジネス最適化まで、成功のための最も重要なパートナーとしての役割を果たすというのが基本戦略です。そのため年間42億ドルの開発投資を行っています。2004年にIP NGNのコンセプトを発表してから、今日まで様々な拡充を図ってきました。すでに、BT、AT&Tをはじめ多くのキャリア様にIP NGNをご採用いただいております。NTTグループ様のNGNの商用化も間近ですが、顧客分野、大陸を超えてIP NGNを積極的に推進していきたいと思ひます。

——本日は有難うございました。

（聞き手・構成：編集長 河西義人）